

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202445		
法人名	医療法人愛健会 アイケン医院		
事業所名	グループホームあいけん(貳階)		
所在地	佐世保市上本山町1092-1		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的な麻痺及び痛みを軽減させる為にリハビリを受けながら皆さま生活されています。リハビリスタッフ・職員一体となってサポートしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物1階にデイサービス施設、2・3階グループホーム、隣接にアイケン医院があり、利用者はケアやデイサービスに通う近隣の方々とふれあう機会にも恵まれた環境にある。利用者の介護計画には作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などの専門の協力のもと実施されている。利用者の残存能力を活かす支援を行っている。日々の様子や状況は介護計画の目標と関連づけられ記録され、次の介護計画に繋がられている。施設長は利用者の為に家族、職員、病院、地域とのコミュニケーションを大切にするための働きかけを率先して取り組みをおこなっている。地域からもグループホームは受け入れられウォークラリーには利用者と家族毎年楽しみに参加されている。また運営推進会議も年6回開催され内容からも確認できる。職員の自主性を大切にし日々の介護の意見や提案など盛んに行われ、職員間のチームワークがとれ、気配り目配りが十分現場に行かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民と一体となって運営していくという理念を掲げ、全ての職員が理念に沿ったケアを提供出来る様に努めている	開所時より掲げた理念をともに家庭的な雰囲気での生活を心がけ理念に添ったケアをしていけるようカンファレンスの時職員間で話し意見の統一をはかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事に参加し地元の方々との交流を図っている	事業所は公民館祭や地域ウォークラリーに利用者家族も参加地域ぐるみで利用者を受け入れる態勢確立できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の医院や地域の特養で行われる介護教室を通し認知症の人の理解や支援の方法を広報誌に掲載したり、家族会で説明したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加で話し合い、意見を出し合って今後のサービス向上に繋がるようにしている	2ヶ月に1回、規程のメンバーで開催されており、外部評価結果、職員研修結果報告、利用者状況など報告しており、参加メンバーからの意見を参考に運営にいかしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会を通じ、市とのやり取りをしたり、又、疑問点やわからない点は問い合わせしたりし、利用者により良いサービスが提供出来る様にしている	病院リハビリとグループホーム連携をしている施設が少ない為市側からの相談も多く連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方向でケアをしている。出入り口に音の鳴る飾りを付け、その音でドアの開閉を察知出来る様にしている	身体拘束についての話し合いや勉強会の実施されている。身体だけでなく言葉の拘束についても周知されている。鍵をかけない工夫として出入り口にやさしい音色の風鈴で職員全員が見守りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し虐待の知識を深め防止に努めている		

グループホームあいけん(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで必要とされる方はいなかった為、研修会等で学習したのみ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際には、家族に遠慮なく質問していただき、ホームの理念に基づいた支援や対応の仕方を十分説明し、理解・納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前に意見箱を設置し意見・要望をお聞きしている。面会時・毎月の支払い時にも話を聞いたり、家族会で出た意見・要望等も運営に反映させるよう努めている	年1回家族会を開催し家族だけの進行で希望や意見を出してもらう方法を取り入れた形式で行なっている。今年は1月31日に予定している。出された希望、意見は業務改善に取り入れる。意見箱は投函がほぼないが即対応としている。	次回家族アンケートが予定されており、ホーム運営に活かされることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや会議の場で職員からの意見や提案を出してもらい、運営に反映させるよう努めている	毎月のカンファレンスの他に職員からの意見は管理者、施設長に出しやすい状況にしてあり把握されている。職員間の申し送りノートもきめ細かく記入されており希望、意見など出しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共に介護職として参加し、日々の会話、表情の変化に注意し、問題等あれば話し合いの場を設けたり、職員の向上心を優先し、研修参加資格取得に向けての協力をし、働きやすいよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会に参加しやすいよう勤務を工夫している。内容を報告書提出とカンファレンス等で報告し、スタッフ全員共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属しブロックでの勉強会に参加したり、毎年4事業所合同風船バレー大会も開催して今年で3年目になり、スタッフ間でも情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み時より利用者本人から、困っている事・不安な事・求めている事等を聞いて信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時より家族から困っている事・不安な事・求めている事を伺って信頼関係を築き、解決出来る様に努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ともよく検討し、必要とするサービスを本人と家族に満足していただけるよう見極めた上で対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、昔話を聞いたり、毎日の洗濯物たたみや台拭き等を手伝っていただき、感謝の言葉を伝え支え合っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月発行するお便りに、日常生活を細かく伝え、家族と一緒に本人を支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年利用されていた美容室に出かけたり、デイケア、デイサービスへ遊びに行かれる等して継続を支援している	併設デイサービスやリハビリなどで来所される方にも馴染みの方が多く、グループホームに遊びにこられる事も多い。なじみの美容院なども引き続き利用している。自宅へ帰宅介助や年賀状、電話などの支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数で昔の話をしたり、皆で歌を唄ったり、貼り絵等共同で出来る様に取り組んだりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院入院の場合は今までの趣味の材料を提供したり、他病院の場合もお見舞いに行ったりしている。又御家族様とお会いした時は、会話したりして関係が途切れてしまわないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や折にふれ本人様に意思の確認や意向を聞いている。困難な場合は御家族様からの情報を参考に可能な限り利用者の意思に近づけるように努めている	職員は利用者との会話の中から思いを把握したり、これまでの生活歴や家族の思いをふまえて検討し、利用者が選択できるような声かけをおこない、気持ちを表情から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にケアマネージャーから、これまでのサービス利用・経過を聞いたり、御家族からは入所前～後等面会に来られた時は話を伺うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人が何に楽しみを見出されているか見極め材料を提供したり、利用者別個人ノートを作り、状態変化等、気づいた事を記録し職員全員で目を通し把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望・意見を取り入れ介護計画の作成をしている。又、毎月のカンファレンスで全ての入所者の状況の意見交換をしている	毎月のカンファレンスで利用者の状況や意向をまとめている。また介護計画は短期3ヶ月長期6ヶ月でみなおされ、利用者、家族の要望も汲み上げている。ケア内容は毎日ケアプランチェック表を作成し次の見直しにつなげられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表を毎日チェックしその他個人ノートや、療養記録、申し送りノート等で、日々の様子を把握し、ケアプラン作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者より希望があればデイサービスのレクリエーションへ参加したり、2F～3FのGH間でも、同じ趣味の利用者同志行き来している		

グループホームあいけん(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の協力で消防訓練を行ったり、公民館祭りや、歩行ラリー等に参加させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの併設病院をかかりつけとされている方がほとんどであるが、本人・家族の希望があれば、歯科・眼科・皮膚科など必要な医療が受けられる支援をしている	利用者は併設医院がかかりつけ医が多いが、他のかかりつけの病院の継続は可能である。薬などの処方変更時には家族への説明もなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づき等あれば、当ホーム内看護師に伝え併設している病院への受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や病院看護師と密に連絡を取り状況などを見極め一日も早く退院出来る様になっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化された場合は併設している病院と密に連絡を取り、御家族へ状況を説明し、利用者・御家族の意向を良く確認した上で全職員が同じ意思を持ってケアに努めている	重度化や看取りについては入居時に説明がなされ同意もなされている。利用者の状況に応じ、医師・家族・職員での検討がなされている。職員へは併設医院で研修ができ、職員間の連携についても話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設している病院にて実施されている勉強会・訓練に参加し緊急時の対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の消防団の協力を得て避難訓練や消防訓練を定期的に行っている	年2回の消防訓練、夜間などの想定訓練がなされている。3月にはスプリンクラー設置されている。運営推進会議を通じて地域への消防訓練報告及び参加が話されている。地域は地滑り地帯であり避難などの話しもされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、一人ひとりのプライドを尊重した丁寧な言葉使いで接している	利用者の羞恥心を考慮し、居室での着替え時のドアや大声で話しかけずに耳元での声かけなど職員間で周知されている。職員へは守秘義務の誓約書が作成され、家族へも個人情報取扱についても説明同意がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	電話をかけたい・買い物へ行きたい等々いろいろな希望を聞きだし、可能な限り実現している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は無理に起こさず自分のペースで起床されている。日中はその日の気分や体調に配慮し自分らしく過ごして頂けるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や整髪剤を購入し洗顔・入浴後に使えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルと一緒に食事し会話を楽しんでいる。利用者それぞれの出来る力に応じて配膳・下膳・茶碗洗いをお願いし一緒にしている	好物は日頃の食べ具合や会話から調査しフェイスシートに記録されている。誕生日などに利用者の希望献立にしたり、活け作りを目の前で盛ったり、季節の食材を取り入れるなど工夫されている。個々の咀嚼力に応じた配膳がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量を記入し、入浴後と10時・15時のおやつ時の水分補給を行い、就寝時にはペットボトルで配茶している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔衛生に努めている。電動歯ブラシを使用したり、プライドを傷付けないようにケアしながら仕上げ磨きをおこなっている。歯科スタッフによる口腔ケアも実施している		

グループホームあいけん(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンが分かるように排泄チェック表を付け、時間をみてトイレへ誘導し失敗を減らしている	排泄チェックシートと水分摂取量を記録され、時間や個々のパターンにあわせた誘導がなされている。失禁を無くす支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者それぞれのパターンを把握し、冷たい牛乳等水分補給を促したり、上半身を動かしての体操入浴時浴槽内でのお腹のマッサージ等を、声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3/W・リハビリのない日等にゆっくりと入浴して頂いている	週3回の入浴を目安とされている。その他にシャワー浴はいつでも可能である。利用者の状況に応じてドア越しの見守りだけや、入浴介助支援がされている。入浴剤や入浴時間など個々で楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼の間・ソファなど体調に合わせて使用して頂ける場所を設け、誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のお薬リストを作成し朝・昼・夕に分けて管理し、個人記録ファイルに説明書を挟み効能・服用方法・副作用等、いつでも確認出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴・趣味・習慣を活かせる活動を持っていただけるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上やホームの周りへの散歩・ストアへの買い物へ出かけている。又、季節折々の花見・ドライブに出かけたり、たけんの夏祭り・ウォークラリーへ参加して外出を支援している	同敷地内の施設へリハビリに出かけたり、買い物やプランターに野菜作りなど行っている。地域のイベント参加や花見などの行事を企画したり、利用者の行きたい店などドライブや外食するなど、施設内にこもりきりにならないように支援されている。	

グループホームあいけん(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出掛ける際は、預かっているお金で対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出があったら、いつでも対応している。年賀状やお手紙の希望があれば出す支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア・廊下には季節毎に利用者が作成した、ちぎり絵や貼り絵、イベント事の写真を貼ったりしている。皆さんの好きな音楽(童謡)を流したり、温度の方も冷・暖房を入れ調整している	リビングには季節の飾り付けがなされており、利用者も一緒に飾り付けし楽しんでいる。日々の清掃喚起などの他にワックスがけも定期的に行われ過ごしやすい空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアのソファや畳の間を自由に使い思い思いの時間を過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より思い出の品や、家族の写真などを持って来ていただき、本人様が過ごしやすい空間作りを心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の能力に合わせ排泄・歩行等、出ることであれば行ってもらい、出来ない部分のみ介助している。手すり等安全確保できている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202445		
法人名	医療法人愛健会 アイケン医院		
事業所名	グループホームあいけん(参階)		
所在地	佐世保市上本山町1092-1		
自己評価作成日	H21年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも掲げている家庭的な雰囲気をできるだけ取り入れられるよう、入所者の方の希望を尊重して日常のルールを決めています。例えば、食事の際の「いただきます」を皆さんと一緒にしたいという希望から3階では元気に「いただきます」で食事をはじめています。また専門性を活かし、食事の時間にSTによる嚥下訓練をとりいれて実際に食事状態を見てもらうなど、生活に密着したりハビリが出来るようになってきています。またもともと、地域からの入所も多く、面会に来るお客様に対しても、また来てもらえるような心遣いを心掛けており、ホームにつ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より理念を作成し、目立つ場所へ掲示し、常に心掛けて毎日のケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事に参加し地元の方々との交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の医院や地域の特養で行われる介護教室を通し、認知症の人の理解や支援の方法を広報誌に掲載したり、家族会で説明したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度も評価結果の内容の報告を行い、委員からの意見を参考に業務に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会を通じ市とのやりとりをしたり又、疑問点やわからない点は問い合わせをしたり、利用者によりよいサービスが提供できるようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアに鈴を付け、音でドアの開閉を察知するようにしているが、精神状態が不安定な時や、職員の数を手薄な時に短時間施錠する事もある。特定の人ではあるが押し車に鈴を付けて行動を把握するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を常に頭に置き、業務についている。今後このような研修に随時参加し、知識を深めていきたい。		

グループホームあいけん(参階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ研修、管理者研修、その他の研修でも学ぶ機会が何度かあり、活用について検討しているが、現在対象者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際には、家族に遠慮なく質問していただき、ホームの理念に基づいた支援や対応の仕方を十分に説明し、理解・納得いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置し、苦情等ある場合に利用して頂くようにしてある。面会時等に、こちらの様子等お伝えし、ご意見等お聞きすようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス以外でも、活発な意見が出され、充分時間をかけて検討されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共に介護職として参加し、日々の会話、表情の変化に注意し、問題等あれば話し合いの場を設けたり、職員の向上心を優先し、研修参加資格取得に向けての協力をし、働きやすいよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会に参加しやすいよう勤務を工夫している。内容を報告書提出とカンファレンス等で報告し、スタッフ全員共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属しブロックでの勉強会に参加したり、毎年4事業所合同風船バレー大会も開催して今年で3年目になり、スタッフ間でも情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とコミュニケーションを取りながら、不安を少しでも取り除いていけるような雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安に思われていること等をよく聞き、上司、職員間でよく相談、検討し、連絡等こまめにとりながら解決するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所については次回より、検討会を実施し、他方面からの意見を取り入れ検討する予定。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、居室の掃除やゴミ箱作りなど、利用者が出来る事を手伝ってもらっている。また、昔の知恵や、教養、歌などを教わり、同じ時間を過ごしながらか信頼しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者の日常の状況を伝えている。ご家族と一緒に楽しめる行事には参加をお願いし、その他の行事や日常の写真はそれぞれに、月一度生活の様子を添えたお手紙を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に電話を掛けていただいたり、来所された折には、お茶でおもてなしをして、ゆっくりと談笑できる場を提供している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の人格を把握しフロアーの座席決めをしたり、共同で出来るトランプやゲームなどをレクリエーションで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際等お見舞いに行ったり、退所後もご家族とご近所でお会いする機会があれば、経過をお聞きするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族からの情報を参考にしたり、本人からの話を良く聞き、少しでも希望に添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族からの詳しい情報をもとに、今までの生活環境を出来るだけ崩さないよう、趣味や特技を生かして生活してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状や心身状態の変化など、個別にノートを作成し、申し送りを行い情報を共有・把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コミュニケーションを取る事で本人の思いを知り、又家族が来所されたときに要望を聞いて聞いている。ケアについてはDr、NS、PT、OTの意見を聞き介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	療養記録は日中と夜間で色分けし様子や変化などを記録している。ケアプラン表にチェックを行い実践出来なかったプランは見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な家庭の事情や身体レベルの低下などに伴う転院などの相談など、医師と一緒に、なって総合的な検討を行うことができています。		

グループホームあいけん(参階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が現在までに培ってきた地域の付き合いから友人関係まで大事にし、来所の際も精一杯のおもてなしをしようとしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの病院等の確認を行い、定期受診等家族対応できない場合は支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	10月後半より介護兼看護師2ユニットで1人対応となり、朝、夕の申し送り等で体調管理行っている。又、看護師休日の場合は併設の外来、病棟、NSに協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻回にお見舞いで身心のケアに努め、ご家族と共に医師との話し合いを行い、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りまで対応する方針をご家族に伝え、状況の変化を見ながら入所者、家族に意思確認、説明を行い併設病院の医師と共にチームを編成し、支援を行えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	毎年消防署の協力にて応急救護の訓練を受けている。又、AEDの講習を受講する等知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域消防団の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気をつけ声かけも場合によっては、プライバシーを守る為居室で行う場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表すような声かけを心掛け、自己決定できるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等の大まかな時間は決まっているが、余暇時間は個々の好きな事に取り組んで頂き、必要に応じて援助している。レクレーションについては、個別レクを取りいれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望された時のために化粧品や道具は常に準備しており、月に1度は美容師の方に来ていただいて散髪してもらっている。希望者があれば行きつけの美容院への送迎を職員で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時期の果物を提供したり、誕生日にはお寿司やケーキを準備するなど、食事を楽しめるような工夫をしている。食事前後の台拭きや片付けは利用者個々の出来る範囲で行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はチェック表に記入し体調を管理している。食事摂取困難な方、体調の悪い方には食材の大きさ、やわらかさを調整し、食器なども考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	率先してされており、自力で無理な方のみ介助している。状態に応じて舌ブラシやスポンジブラシを使用している		

グループホームあいけん(参階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を援助している。夜間のみオムツを使用されている方でも訴えがあった際にはトイレ誘導を行っている。排泄チェック表に記入し1日を通して分かるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声かけや、起床時の氷水の提供等行っている。レクリエーションでは体操取り入れており、参加を呼びかけ適度な運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を決め入居者に合わせ、ゆっくりくつろいで入浴してもらっている。季節に応じて、バラ湯、菖蒲湯、入浴剤を入れて楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションやおやつなどの声かけをし、無理強いわせず、その時の状況で参加していただき、夜間は以前の生活習慣に合わせて入眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容はファイルに閉じ、すぐに確認できるようにしている。処方内容に変更があった場合は、その都度確実に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に1度、買い物、外出日を決め好きな物、食べたい物を買ひ、自由に食べて頂いている。天気の良い日には、屋上で過ごしたり、おやつを食べたりして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一緒に買物に行ったり、花の季節には、菖蒲や紫陽花、コスモスなどを見に外出している。最近うどん店が開店し食べたいとの要望でかけたが、美味しかったと大喜びであった。		

グループホームあいけん(参階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の無理な方の買物は預かり金にて対応し管理できる方は小額を持ってもらい、希望時に使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があった時は、すぐに対応しており、年賀状や手紙のポストへの投函等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには季節に応じた壁面を飾り、各居室にも季節の花、木の実を貼っている。そして利用者による作品、カレンダー、塗り絵、切り絵等を廊下に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビはいつでも視聴できるようにしており、ソファーやたたみの間を用意し、新聞や読書や歌を唄ったり、利用者同士でおしゃべり等して自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品、趣味の物など、本人の好む場所に配置し、本人が落ち着ける空間が出来るように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人ひとりの出来る事をスタッフ同士で意見交換し会い、見守り補助をしながら出来る限り自立した生活を送って頂いている。		